③ 日銀事務所長の 旭川・道北コラム

新しいお札（新銀行券）の流通・切替状況など

今月は、実りの秋・食欲の秋を満喫できる行事が至るところで開催されていますね。

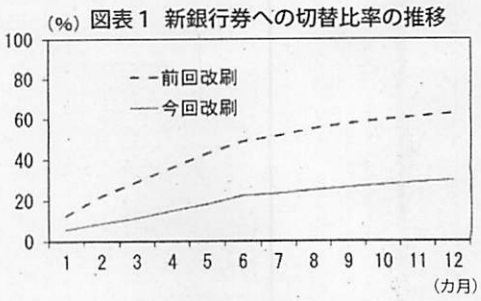
私は、あさひかわ食べマルシェや旭川まちなか焚き火Ｂａｒなど中心地のイベントのほか、幌加内町新そば祭りで取れたての蕎麦を楽しんだり（ファイナルの続きを祈ってます）、愛別きのこの里フェスティバルでキノコ汁とキノコカレー（絶品コスパ最高）を満喫したり、鷹栖マルシェで取れたての枝豆（自分史上最高の甘さ）や、オオカミの桃（あまりの美味に家族に発送）を味わったりと、地元ならではの豊かな秋の味覚を楽しめる行事に参加して食欲を満たすことができました。

この時期に、色々な地域を回っていると、ＪＡたいせつ田んぼアートに感心したり（北口選手頑張れ）、上士別地区の広大な水田（黄金色に輝く稲穂がたわわに実るあぜ道の切れ目が視界に入らない圧倒的なスケール）を目にしたり、美瑛町や当麻町などで収穫作物ごとにユニークな形状の巨大な農機で、蕎麦や玉ねぎなどの作物を豪快に収穫する様子を眺めたりと、食卓に届けられる前段階の当地ならではの農作物の姿も目にして、豊かな秋の実りを実感・満喫することができました。

さて、日本銀行では、二〇二四年七月三日に新しい日本銀行券（以下「新銀行券」といいます）の発行を開始して約一年が経過しました。この間、金融機関、警備輸送会社、小売店など、多くの関係者のご協力により、新銀行券の流通・切替は、着実に進んでいます。二五年六月末時点で、新銀行券の発行残高枚数は約五十億枚、銀行券発行残高の約三〇％に達しています。

銀行券の発行残高に占める新銀行券の比率をみると、〇四年十一月に行われた前回の改刷と比べて、低く推移しています（**図表1**）。

前回と比べて新銀行券への切替比率が低く推移している理由としては、銀行券発行残高が増加していることや、前回改刷時は偽造銀行券（にせ札）の急増が社会問題になっており、新銀行券の需要が非常に強かった一方、今回の改刷ではそうした事情がないこと、などが主なものとして挙げられます。

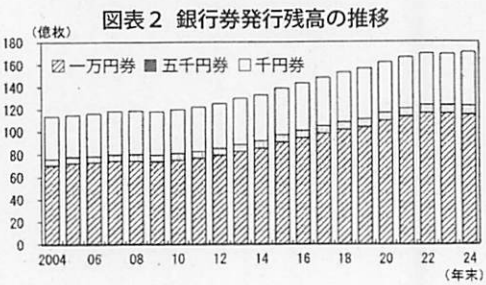


図表1 新銀行券への切替比率の推移

銀行券の発行残高の推移を券種別にみると（**図表2**）、全体の発行残高を押し上げてきたのは、一万円券です。一万円券には、取引目的（取引需要）のほか、価値の貯蔵などを目的に保有される傾向もあることから、取引以外の目的（非取引需要）による保有が増えていた可能性を示唆するものと考えられます。取引需要で保有される銀行券は、取引後に金融機関を通じて日本銀行に預け入れられる一方、非取引需要で保有されている銀行券は、日本銀行に戻らず新銀行券への切替が進みにくい面があります。

この非取引需要で保有されている銀行券の規模を一定の仮定を置いて推計すると、最大で銀行券発行残高の概ね半分程度を占めている可能性があるとの試算結果になりました（**注1**）。現実には、火災等で滅失してしまったものや、海外に持ち出される銀行券も含まれるため、試算した非取引需要が、いわゆるタンス預金と呼ばれるものと同一ではありません。

これまで、日本銀行では金融機関への当座預金の払出しに、新銀行券と一世代古い銀行券（福沢、樋口、野口の肖像の銀行券）の両方を用いてきましたが、再流通させることが可能な新銀行券の保管高確保が進んだため、この十月以降は、原則として新銀行券で払出すこととなりました。このため、新銀行券への入れ替えが一層進むものと見込まれます。日本銀行では、金融機関をはじめとした関係者のご協力を引き続き頂きながら、様々な最先端の偽造防止対策（**注2**）が施された、安全・安心に使うことができる銀行券の安定的な供給に努めて参ります。



図表2 銀行券発行残高の推移

【注1】「新しい日本銀行券の流通状況について 2025年7月」https://www.boj.or.jp/research/wps_rev/rev_2025/rev25j06.htm参照。

【注2】https://www.boj.or.jp/note_tfjgs/note/n_note/data/n_note01.pdf

（毎月第四週に掲載します）

【佐藤弘康（さとう・ひろやす）】 1970年、宮城県出身。東北大学法学部卒。システム情報局企画役、決済機構局企画役、業務局企画役、発券局戸田発券課長を経て、2025年、旭川事務所長に就任。